

葦

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

大阪発達総合療育センター機関紙
第41号 2021年夏

INDEX

- | | |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| ・特集に寄せて ……………1P | ・「憲法記念日知事表彰」を受けて ……………4P |
| ・法人創立50周年記念
「愛徳福祉会の歴史を振り返る」2P | ・中村拓海さんの東京大会出場について ……………4P |
| ・新規事業(グループホーム)のお知らせ…2P | ・子育てハンドブック ……………4P |
| ・新型コロナウイルスワクチン接種について…3P | ・第32回大阪府理学療法学会 優秀演題賞 受賞……………5P |
| ・新型コロナウイルス感染症対策設備・備品…3P | ・法人創立50周年記念Tシャツの作成 リレーエッセイ……………5P |
| | ・災害訓練・職員研修実績状況・寄付金と寄付物品 ……………6P |

特集に寄せて

社会福祉法人 愛徳福祉会
理事長

鈴木 恒彦



特集に寄せて

南大阪小児リハビリテーション病院 院長

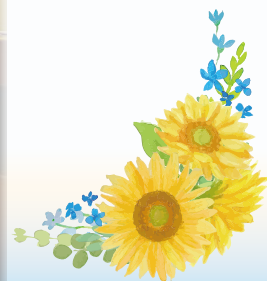
川端 秀彦



昨年来から何波にもわたる新型コロナウイルス感染症の世界的蔓延、逸脱した形での東京オリンピック・パラリンピックの開催など、なすすべのない悔しさに襲われます。人流が制約される昨今では、皆で将来を考える環境が難しいかもしれません。そんな中で、パラリンピック・ボッチャに出場する当法人職員の中村拓海氏の話には我々も励まされます。竹本副院長が新型コロナウイルス感染対策のワクチン接種と山口部長が予防のための設備・備品について解説されています。創立50周年記念関連では、記念のTシャツが作られ、利用者様向けの念願の「子育てハンドブック」が発刊されました。葦に連載中の法人の歴史は今回で終了し、グループホーム事業について触れられています。知事表彰の絹川美鈴氏と優秀演題賞の山根果鈴氏には心から拍手を送ります。恒例のリレーエッセイは、あさしお園・中尾さんのほっこりした話題でした。もう一度前を見上げましょう。

4回にわたって掲載された「愛徳福祉会の歴史を振り返る」は今回が最終章となりますが、歴史はこれからも作られていくのです、その担い手は我々ひとりひとりであることを自覚して、日々の業務に励みたいと思います。今回もコロナ関連の記事が多くありますが、職員全員のワクチン接種が一段落したことは明るい話題です。もちろんブレイクスルー感染、デルタ株の流行、家庭内感染の増加と予断は許せませんので、引き続き気を引き締めて生活しましょう。昨今の明るい話題と言えども東京2020パラリンピックです。ボッチャに出場する当法人の職員である中村選手の活躍を期待しています。今回の記事を読んで、努力は報われるのだなあという思いを新たにしました。ぜひ皆様もご一読下さい。

この夏、幸い大阪では大きな被害はでておりませんが、異常気象が各地に災害をもたらしています。コロナに負けない、災害に負けない強い大阪発達総合療育センターを目指して頑張りましょう。



2003年（平成15年）障害者支援制度において、それまでの措置制度から支援費制度に移行し、大きな転換期となりました。更に2006年（平成18年）に障害者自立支援法が施行され、支援の内容を問われる事となりました。一方、法人運営も大きな転換期を迎えました。2006年に重症心身障害児者入所施設「フェニックス」の運営を開始。これまでの肢体不自由児病棟に新たに80床を加えました。

フェニックスの特徴は個室が29室あるということ。また短期入所のベッドが当初20床あるということ（現在は17床）でした。

開設時園長を務められた児玉和夫医師（現ベルデさかい施設長・日本重症心身障害福祉協会理事長）が法人40周年の式典の際に「当時の重心施設にはない、大きなチャレンジである」と述べられていました。

当時、重心施設は4人～8人のユニット型の部屋が中心でした。重度で医療度の高い利用者の方々を支援するには個室よりは大部屋が有効とされていたからです。フェニックスでは、こういったこれまでの常識を覆し、個人の生活を重視することで個室の数を増やしました。

個室によるメリットは、ご家族様だけの空間・時間を過ごすことが出来る、感染症蔓延防止にも有効という点です。また各部屋にモニターを設置することで、体調変化等をタイムリーに確認出来ますので、医療サービスも低下することなく、支援を行っております。

しかしながら、開設当初は様々な困難に見舞われて運営は厳しいものだったようです。

例えば医師を初めとするスタッフ不足。当初医師は充足されていたのですが、開設後多くの医師が他の病院に移れるなどして、当直医の確保も厳しい状況でした。当時は大阪市立大学にご協力を頂き運営しておりました。更には看護師の数を確保するのにもまた大変だったようです。途中で配置基準を10対1から7対1に強化したことも影響して更に確保が厳しかったようです。それから資金不足。開設当初2年かけて80床のベッドをフル稼働させることが大阪市との約束でした。その間は大阪市から運営補助金を支給頂くことで何とか運営をしておりましたが、それでも必要な医療機器等を購入するには更に資金が必要となりました。当時はいろいろな方々に寄付の

お願いをしたり、チャリティーコンサートを開くなど、出来る限りの事を行い、多くの方々から支援を頂き成り立つ事が出来ました。

最後に一番大事な利用者様が当初見込んでいた数まで到達しないということでした。入所を希望される方が居らっしゃるという情報を聞きつければ児玉医師自らが訪問し、フェニックスの紹介を行い、入所に対する不安を少しでも取り除き安心して入所頂けるよう説明するなどして、入所者を集められました。それでも病床がフル稼働になるまでおよそ3年程度は要しました。

その後船戸正久医師に園長が交代し、地域支援に関する多くの事業を始めました。

在宅移行支援、訪問診療、訪問看護、訪問介護等々、現在でも短期入所事業と併せて多くの方々の地域での生活を支える基盤となっています。また最近では保育所等訪問支援事業を活用して職員が学校等を訪問し、障がいのある児童を受け持つ先生方への支援方法等の伝授を行い、地域で安心して生活できる体制づくりを行っております。

また来年には新たにグループホーム事業を開始致します。これは地域生活を支える事業として今後更に必要となる事業と考えております。

地域には今後ご自宅での生活を継続するのが難しくなる重症心身障害者の方々が増えると考えられています。そういった方々が安心して今まで通りご自宅で生活するのと同じ生活を提供すること。これがグループホーム事業には求められています。我々は常に謙虚な気持ちでチャレンジしていくという開設当初の理念を忘れずにこの新規事業にも取り組み必ず地域の利用者の方々の生活を支えていきます。

4回に亘り法人の50年を振り返ってきました。障害福祉制度・医療制度の変革に柔軟に対応し、またご利用者様のニーズに沿った支援をこれまで進めてきました。今後も今までと同様に制度に合わせて且つご利用者様のニーズを第一に考えてサービスの質を向上させることを続けたいと思います。

そしてこれからの10年20年法人の歴史を積み重ね、次の世代に繋げていきたいと思っております。

新規事業（グループホーム）のお知らせ

運営局 局長 梶浦 正

当法人が現在進めている新規事業としてグループホーム事業があります。今から4年前の2017年11月に検討を開始、2年前の2019年に土地を購入。その後2021年オープンを目指して進めておりましたが、コロナウイルスの影響を受けて、一年開始を延期致しました。現在は2022年6月オープンを目指して、10月頃から建築工事等を行う予定です。

このグループホームでは入居される方が明るく楽しい生活を送ることを支援致します。

当法人としては初めての事業となりますが、今まで培った経験を活かして障がいのある方の地域での生活を支えたいと思っております。

入居を希望される方への説明会を9月以降に行う予定です。説明会の日程については今後センター内での掲示や、ホームページでのお知らせを考えておりますので、ご興味のある方は是非ご参加下さい。



新型コロナウイルスワクチン接種について

南大阪小児リハビリテーション病院 副院長 竹本 潔

当法人でも5月上旬より全職員を2グループに分けて新型コロナウイルスワクチンの接種を実施いたしました。副反応がいろいろと報道されている中で、周到に準備をして万全の体制で行い、幸い大きな問題なく接種を完了することができました。大人数の接種では、事前の薬液の手配・準備が最も大変でした。超低温の冷凍状態で届けられるワクチン（ファイザー社製）を解凍し、すみやかに希釈後シリンジに充填する作業を確実に行いました。ワクチン接種にご協力いただいた職員の方々へ心より感謝申し上げます。



7月上旬より外来患者様へのワクチン接種も開始いたしました。基礎疾患のために集団接種や近隣で接種することが困難な患者様に、ぜひご利用いただきたいと思っております。ワクチンの入荷が不安定な状況ではありますが、可能な限りご要望にお応えしたいと考えております。

この人類初めてのメッセンジャーRNAワクチンは、これまでの病原体そのものを加工（弱毒化やタンパク質の構造を模倣する）して接種するタイプとは全く異なり、ウイルスのタンパク質をつくるもとなる情報の一部を注射します。ヒトの身体の中で、この情報をもとに、ウイルスのタンパク質の一部が作られ、それに対する抗体（免疫）ができるしくみです。接種後の副反応はもとより、効果の持続期間や人体への長期的な影響など、まだ十分に解明されていないため、しっかりと見守っていく必要があると感じています。また、感染防御に関しても100%ではないため、引き続き適切な感染防止対策の継続をよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症対策 設備・備品の導入について

事務部 部長 山口 備



自動検温器

昨年来、当センターでは新型コロナウイルス感染症対策として、検温や手指消毒の徹底、入所施設における面会や外出の制限、リハビリテーションにおける入所と外来の担当者分離、動線分離、ゾーニング、外来におけるオンライン診療の導入等々の様々な対策を採ってきましたが、これに加えて、大阪府・市の新型コロナウイルス対策関連補助金を利用したハード面の整備も行ってきました。ここでは、その主なものを紹介します。

○自動検温器（ドームカメラ型体温測定サーモグラフィーカメラ・ディスプレイ）

：2020年9月11日設置

玄関に設置して来院された利用者様の体温測定を徹底しています。併せて、11月には小型の自動検温器（顔認証サーマルカメラ卓上型）を本園の通用口と分園に設置し、利用者様だけでなく、職員の体調管理にも活用しています。

○簡易陰圧装置（感染対策排気ユニット）：2021年1月26日設置

4階フェニックス短期入所病棟の2室に簡易陰圧装置を設置しました。万一、センター利用者様にコロナ陽性者が発生し、受け入れ先のコロナ対応医療機関が決まらない場合等に備えるため設置しました。2月に短期入所利用者様が濃厚接触者と判明し、受け入れ先が無く困難を極めた状況の中で、陰圧室を使用してフルPPE対応にて11日間受け入れを行いました。

○紫外線殺菌装置：2021年3月10日設置

空気中と環境表面のウイルスの除去・除菌を同時に行う装置です。紫外線は人体（目や皮膚）に悪影響があるため、使用時は人が近づかないよう注意が必要ですが、ルールを徹底して使用すれば、清拭等に比べて効果的・効率的な除菌が可能です。

○リアルタイムPCR検査装置 ID NOW :2021年3月30日設置



簡易陰圧装置

PCR検査を行う際は、採取した検体を外部の検査業者に委託し、結果判明まで2日程度要していましたが、本装置を導入することにより、約20分で判定が可能になり、迅速な事後対策が可能になりました。3月末導入後約3か月半の間に本装置による検査人数は120名を超え、うち2名の陽性者を確認しましたが、いずれのケースもそれ以上の拡がりは抑止され、クラスター発生が回避されました。

「憲法記念日知事表彰」を受けて

訪問看護ステーションめぐみ 所長

絹川 美鈴

この度、大阪府訪問看護ステーション協会の推薦により、大阪府知事より「憲法記念日知事表彰」を頂きましたこと、とても荣誉あることだと感動しております。

ここまで来られたのも、先生方をはじめ関係部署の皆さま、利用者皆さまからご指導いただけたおかげです。本当に心から感謝申し上げます。

「小児」を一番苦手とする私が「重心の世界」を選んだ理由、それは「障がいの子ども達を誰かが見ていかななくてはならない！」という当時の看護部長の言葉でした。その言葉で「小児への訪問看護」が私の使命だと感じ、今日まで取り組んでまいりました。

あれから早いもので10年が経ちました。紆余曲折あり、様々な課題に押しつぶされそうになったこともありましたが、皆さまの支えで今日までがんばることができました。

これからもこの表彰に恥じないように、今まで以上に仕事に励んでまいりますので、引き続きご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



中村拓海さんの東京大会出場について

リハビリテーション部 理学療法士 井上 伸



オリンピックのメダルラッシュに沸く日本ですが、いよいよ8月末に中村さんが出場するもう一つの大会、東京2020パラリンピックが開催されます。彼がボッチャを始めたのは、私が外来で担当になったときに勧めたことがきっかけでした。当時、フェニックス病棟の入所者様と一緒にやっていたボッチャを紹介しました。当初、変形・拘縮によりボールを握ることも難しく、ランプを使ってやることから始めました。しかし、ある時彼から「ボールを使って投げたい」と言われました。そのころの彼は、自分で何かをやりたい、こうしたいといったことは少なく、生活におけることでも受け身であることが多くありました。そんな彼からの言葉を聞き、手を広げられるように自主練習を伝えました。外来では、クッション性の柔らかいボールから握れるよう段階的に練習を重ねました。練習を続け、ボッチャのボールを握るのに1年、距離を飛ばせるようになるまでに半年と、基本的な動作ができるようになるまでには、長い時間が必要でした。

あれから10年程が経ち、東京2020パラリンピックへの出場権を獲得し、いよいよ本番を迎えることになりました。ここまでやってこられたのは、彼の努力はもちろん、皆様のご支援があつてのことだと思います。最後まであきらめない彼のプレーを見て頂き、皆さんと一緒に勝利をつかみたいと思います。タクミラクルに乞うご期待です!!

子育てハンドブック ～脳性まひ児とともに～ 出版のお知らせ

当センターの、鈴木理事長、船戸センター長、川端院長 監修による、「子育てハンドブック～脳性まひ児とともに～」が市村出版より7月に出版されました。

当センターの創立50周年を迎え、ご利用者様、ご家族の皆様の子育てを、職員の総力を挙げてお手伝いする為、ご家庭に少しでも役立つメッセージをお届けします。

全国の書店にてお買い求め頂けますので、是非ご一読ください。



第32回大阪府理学療法学会 優秀演題賞受賞

リハビリテーション部 理学療法士 山根 果鈴



令和2年9月13日に行われた第32回大阪府理学療法学会において、「歩行機能が大きく改善した学童期の脳性麻痺がある子どもの一例～GMFM評価から考える～」という演題を発表いたしました。わかば病棟にて手術の施行と集中リハ入院を行った児を一例に、GMFM（脳性麻痺児が対象の粗大運動能力の評価尺度）を用いて手術前後の機能評価を行い、年齢からみる経時的な変化やそれに対するセラピー、手術の必要性について考察し、優秀演題賞をいただきました。発表に際し、ご協力くださった利用者様とごご家族に感謝申し上げます。

今回の発表は、コロナ禍で大会はWeb開催となり、発表形式も口述からオンラインのポスター発表になるなど、目まぐるしく変わる状況下で準備を進めました。この発表が、今後手術や集中リハ入院を検討していく方々の後押しや、小児リハビリテーション発展の一助になればと思います。これからも皆様のご助言、ご指導のほどよろしくお願いいたします。

法人創立50周年記念Tシャツの作成

今年5月で法人創立51周年を迎えました。本来50周年の昨年に記念行事を行う予定が、皆さんご承知の通り、新型コロナウイルス感染拡大を受けてすべての行事が、中止もしくは延期となりました。今年に入っても収束の目途もたない状況で、一年遅れの行事の開催も今のところ未定です。そういった状況の中少しでも職員の皆さんと50周年の喜びを共有しようという主旨の下、50周年記念Tシャツと記念クリアファイルの作成を行いました。デザインの中心は看護師の国本さんをお願いをし、当センターが目指す「みんなの笑顔が集まる場所」の文字や、大阪発達総合療育センターの英語での頭文字「O. D. R. C」を使った温かみのあるデザインに仕上げてくださいました。

今回は全職員と、フェニックスとわかばに長期入所されている方々にも配布致しました。

クリアファイルも全職員に一枚ずつ配布致しました。残りの枚数については今後外部からこられた方々への資料配布の際には活用する予定です。



あさしお園 保育士 中尾 礼子

今年もマンションのベランダには、あさがおが並んでいます。

きっかけは2020年夏。染め遊びのためクラスで育てていたあさがおの保険として、自宅でも栽培を始めました。花が摘めたらOK！と小さく育てたあさがおですが、いつの間にか毎朝の観察が楽しみになり、咲き終わる頃には寂しさ1つのひらめきがありました。「ベランダの西日対策になるかしら！」

そして1年越しに始動したグリーンカーテン計画。今年のベランダは洗濯物よりもあさがお優先です。夏至の朝、1つめの花が咲きました。摘み芯、芽かき、こんな小学校で習ったっけ？早すぎる蕾は摘まないといけないそうですが、可哀想やからまあいいか！と、あさがおの生長をゆるーく見守っています。

ちょっと透け感はあるながらも、7月にはますますな背丈になり、紫色の花をたくさんつけました。来年は、光を遮るタイプのグリーンカーテンを目指します！以上、あさしお園中尾でした。

次回は、事務部総務課 恵職員です。お楽しみに！



センター全体 災害訓練の実施

2021年6月19日（土）にセンター全体の災害訓練を実施しました。

地震発生から火災の初期消火、屋外への避難と負傷者の救護などを想定し、約100名ほどの職員が参加して行いました。



職員研修実施状況

令和3年4月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
令和3年4月1日(木) 2日(金) 5日(月) 9:00~17:30	教育研修部	令和3年度新入職員研修 (兼令和2年度中途採用者研修)	鈴木恒彦理事長 他	35名	5階ホール



大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力 誠にありがとうございます



一般寄付金

(R3.4 ~ R3.6)

月	寄付者（敬称略）	
4月分	匿名	本園
5月分	5月分案基金 5件	
6月分	船戸正久 6月分案基金 7件	

寄付物品

(R3.4 ~ R3.6)

	寄付者（敬称略）	物品名	
4月分	匿名	足台	本園
	第一弘創株式会社	マスク(子供用)	本園
	田中 昭奈	PCW	あさしお園
5月分	匿名	おもちゃ	本園
	出野 彩佳	車椅子	本園
	嶋田 由紀	おもちゃ	あさしお園
6月分	出野 彩佳	おもちゃ	本園
	太田 遼	おもちゃ	本園
	林 清乃	かぶと虫	本園
	匿名	おしりふき	あさしお園
	匿名	おもちゃ	あさしお園



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・鈴木恒彦

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524